

## アプローチ期の実践からスタートカリキュラムへつなげよう（幼小連携）

・園児と小学校の交流～就学への期待を高める～

## ねらい

（ねらい）小学校の先生と触れ合う中で、学校に親しみをもつ

（内容）小学校で学校の先生と話したり、一緒に活動をしたりして触れ合う

## 交流を幼小接続の第一歩に～事前の打ち合わせで相互理解～

（5歳児 1月～2月）

〈校長先生との交流〉

1月。5歳児クラスでは卒園の話題とともに、友達と就学に向けて期待する思いを話す姿が見られるようになってきた。

家庭に兄弟がいる子供は、兄弟の様子から、小学校がどんなところで、何をやる場所なのか、などのイメージをもっている。しかし、兄弟がいない子供にとって、小学校のイメージは「学校は勉強するところ」というような、漠然としたものだった。

そこで、5歳児クラスで“小学校に行く前に知りたいこと、やってみたいこと”を話し合うことにした。

「小学校の先生って園の先生と違うの？」

「小学校でどんなふうに勉強しているのか見てみたい」

「小学校には窓がいっぱいあるけど、どんな部屋があるのかな」

## ポイント

園長が窓口となり、交流計画時に子供たちの興味や関心や交流のねらい、子供に育ちつつある姿を小学校へ伝える。

○小学校にはどんな先生がいる？ ～学校への興味や関心を、触れ合う機会につなげて～

一番初めに子供たちが知りたいことは、「小学校にはどんな先生がいるのか」であった。



「小学校にはどんな先生がいるのかな」


「校長先生がいるよ」

「校長先生って誰？」



「園長先生と同じで、小学校にも園長先生みたいな先生がいるんだよ。その先生のことを学校では校長先生って言うんだよ」



「そうなんだ。どんな先生なんだろうね」  「お話してみたいな」

“校長先生”について予想しながら、友達と話し合う姿が見られた。

○校長先生に聞きたいことをたくさん考えたよ～インタビューカードを作ろう～

子供たちの様子を園長から校長へ知らせ、初めの交流は「校長先生に会いに行く」ことになった。5歳児クラスでは、校長先生に聞きたいことは何か、の相談と準備が始まる。

「校長先生ってなんていう名前なの？」

「好きな食べ物も聞いてみようか？」「好きな色も聞きたい！」



校長先生へ伝えたいことや、校長先生に聞きたいことを紙に書き出し、一人ずつの「インタビューカード」が出来上がった。

○校長先生との触れ合いが、子供にとっての主体的な“学びの場”に・・・

- ・子供が一人ずつ自己紹介
- ・校長先生への質問タイム

「この学校には、子供が全員で何人いますか？」

(校長室の壁に貼ってある、児童の写真のところに行き)

「一緒に数えてみようか」と校長先生。

(「ひと～り」「ふた～り」…一人ずつ写真を指される校長先生のリズムに合わせて、みんなで声を揃えて数える声が弾んでいます)

「よんじゅうい～ち！」「わあ、41人だって！！」

「園よりいっぱいいるね」 数え終わると歓声があがった。



【校長先生とお話】

質問タイムでは、自然に一人ずつ立ち上がって質問が始まる。言葉に詰まって何度もカードを読み返すなど、緊張する姿も見られた。椅子ではなく、子供の目線の高さに座り、笑顔で質問をする子供を見つめ、一つ一つの質問に丁寧に答えてくれる校長先生。その温かさに触れ、次第に子供たちの表情もほぐれていった。

「みんな、いっぱい質問してくれてありがとう。じゃあ、今度は校長先生から聞いてみようかな。皆さんは、小学校でどんなことを勉強するか知っていますか？」

「知ってる、知ってる！」「算数とか字を書くよ」

「そうそう！もう僕、字を書けるよ」「私も家で算数やってる」

校長先生は、小学校ではタブレットを使って勉強していることを教えてくれ、一緒にタブレットで計算ゲームをしてくれた。

「学校の勉強って楽しいね」うれしそうな声が聞こえてきた。



小学校で  
こういうのを  
使うんだよ

【タブレットを一緒に使う】



## ふりかえり

### 園と小学校の積極的な交流が、園児の就学への期待を高める

社会に開かれたカリキュラムの実現に向けて、園長が小学校関係者との連携や、相互理解を図るコーディネーター的役割を果たすことが求められる。そして、子供の育ちつつある姿やねらいの共通理解、認識の共有ができる機会を増やしていく必要がある。

昨年度までは幼小交流の機会が少なかった本園だが、今回、園長が主導して小学校に働き掛けたことで、「校長先生との交流」が実現し、その後、2回の1年生との交流活動の実施につながった。交流の窓口をつくるのが連携・接続の一步となる。園として積極的に行動したい。